

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名:愛知県

1. 事業の概要

事業名称	地域における初期日本語教育モデル事業
事業の目的	愛知県においては、平成25年度に策定した「愛知県多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方」において、「地域における日本語教室」を、「ことばや文化、国籍などのちがいがいいかわからず、すべての県民が誰でも参加でき、日本語を使ってコミュニケーションすることによって日本語の力を身につける」場と位置付けている。このような教育の場では、ボランティアと外国人県民が対等な立場で相互理解を深めるためのテーマや地域に密着したテーマなどを学ぶことで、日本語や日本社会の知識を身につけたり互いの文化的背景や考え方を理解したりすることができる。しかしながら、日本語が全くわからないか、ほとんどわからない外国人県民と最初からこうした場をボランティアがつくることは困難であり、地域の日本語教室が本来の役割を果たすためには、日本語教育の専門的な知識とノウハウを持った専門家が初期日本語教育を行い、ボランティアがコミュニケーションをとれる程度にまで日本語力を身につけてもらう必要がある。そこで、愛知県として、専門家の協力を得て、日本語をほとんど話せない外国人県民を地域のボランティアによる日本語教室へ橋渡しするための初期日本語教育の愛知モデル(あいち初期日本語教育プログラム)を構築することにより、外国人県民を地域社会の一員としてしっかり受け入れ、社会から排除されないための社会インフラ整備を目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	本県の外国人は増加傾向にあり、定住化・永住化も進んでいる中、地域社会でしっかり受け入れるためには、日本語教育が必要であるが、在住外国人の日本語学習を保障する公的制度が存在しない中、日本語がわからない外国人県民に対して、初期日本語を身につけるための環境が整備されておらず、地域には、ボランティアの日本語教室があるが、ボランティアだけでは限界がある。こうした現状を踏まえ、平成30年度に、日本語教育の専門家の協力を得て、地域の日本語教室と連携した初期日本語教育を愛知県が行政として初めて行い、一定の成果を上げたところであるが、教室の運営方法や教育内容について、検証してブラッシュアップする必要があるとともに、こうした取組を各地域に広げていくため、引き続き、実施する必要がある。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	日本語教育の専門家や市町村、NPOなどの協力を得て、地域の日本語教室と連携した初期日本語教育を行う愛知モデルの構築に向け、以下のとおり、昨年度に引き続き、モデル的に教室を開催するとともに、人材育成と教材作成を行った。 ①初期日本語教室を開催し、日本語がほとんど話せない外国人県民に対して、日本語教育の専門家による生活者向けの対話型の初期日本語教育を行った。また、学習者が初期レベルを終えた後、継続して学習できるよう、養成講座の受講生にもサポーターとして教室活動に参加してもらった。初期日本語教室では、日本語教育の専門家と養成する日本語学習支援者と連携して、受講者への指導を行った。 ②初期レベルの学習者でもサポートできるような人材(日本語学習支援者)を養成するための講座を開催した。その際、座学だけでなく、実際に初期日本語教室で、日本語学習支援者として、学習者への支援を行った。初期日本語教室の後に、毎回ふりかえりを行い、活動への理解を深める機会を設けた。更に、教室活動レポートを作成し、一人一人が活動について考えを深める機会も設けた。また、平成30年度に養成した受講者のフォローアップ講座を開催した。 ③平成30年度に作成した学習教材を基に、トピックの追加や構成の見直しなど教材の改訂を行い、初期日本語教室で活用した。また、各地域で取り組めるよう、指導者マニュアルを作成した。
事業の実施期間	令和元年5月～令和2年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	尾崎 明人	名古屋外国語大学・名誉教授
2	俵山 雄司	名古屋大学・准教授
3	和田 貴子	公益財団法人名古屋YWCA
4	米勢 治子	東海日本語ネットワーク・副代表
5	伊東 浄江	特定非営利活動法人トルシーダ・代表
6	河村 八千子	特定非営利活動法人フロンティアとよはし・理事長
7	杉山 美紀	公益財団法人愛知県国際交流協会・課長補佐
8	酒井 武士	刈谷市市民協働課・係長
9	伊藤 クリスティーナ	Bri Asia合同会社・代表社員
10	東松 陽一	愛知県多文化共生推進室・室長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年7月30日(火) 15:30～17:30	2時間	あいち国際プラザ会議室A	尾崎明人、俵山雄司、和田貴子、米勢治子、伊東浄江、河村八千子、杉山美紀、酒井武士、伊藤クリスティーナ、東松陽一、各務元浩、大久保園子	1. 事業の概要説明 2. 地域における初期日本語教育モデル事業(案)の検討 3. 意見交換
2	令和元年11月18日(月) 15:00～17:00	2時間	あいち国際プラザ会議室A	尾崎明人、俵山雄司、和田貴子、米勢治子、伊東浄江、河村八千子、酒井武士、伊藤クリスティーナ、東松陽一、各務元浩、大久保園子	1. 前回の議論のふりかえり 2. 取組の中間報告 3. 意見交換
3	令和2年2月17日(月) 10:00～12:00	2時間	あいち国際プラザ研修室	尾崎明人、俵山雄司、和田貴子、米勢治子、伊東浄江、河村八千子、酒井武士、伊藤クリスティーナ、東松陽一、大久保園子	1. 事業の結果報告 2. 事業の成果と今後の課題について 3. 意見交換

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<ul style="list-style-type: none">○刈谷市…事前に、既存の日本語教室のボランティアに対して本事業の説明を行い、協力依頼をした。初期日本語教室及び指導者養成講座の会場を確保した。養成講座において、市の取組や地域の実情、外国人の状況等について説明を行った。○刈谷市国際交流協会…協会内で開催している日本語教室に通う学習者に、初期日本語教室への参加を促すなど、受講者の募集に協力した。○一宮市国際交流協会…昨年度開催した養成講座の受講者を対象とするフォローアップ講座を開催するにあたり、会場の確保に協力した。○地域日本語教室のボランティア…協会で開催している日本語教室に通う学習者のうち、初期レベルの人に声をかけ、初期日本語教室への参加を働きかけた。養成講座の受講生として、参加した。○名古屋出入国在留管理局・職業安定所等…初期日本語教室の学習者募集の広報のため、チラシの配架に協力した。○日本語教育専門家・団体…初期日本語教室の運営、養成講座の開催、学習教材の作成をした。また、初期日本語教室の終了後に、毎回サポーターとふりかえりを行い、日本語教室の円滑な運営と、養成講座受講者に、対話型初期日本語教室の理解を深めるための助言などを行った。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<ul style="list-style-type: none">○県は実施主体として、本事業の全体を統括するとともに、運営委員会の開催や参加者の募集を行った。また、初期日本語教室・養成講座・教材作成の委託者の選定を行い、再委託後は、再委託団体と連携して事業を実施した。養成講座では、県の取組について説明を行った。本事業の実施状況を報告書にまとめ、評価を行い、公表する。○コーディネーターは、本事業の全ての取組に関わり、各取組に関して必要な助言を行うとともに、事業全体について、実施主体である県へ助言や評価等を行った。○再委託団体は、初期日本語教室や養成講座開催の事務や実際の運営を行うとともに、教材作成委員会での検討を踏まえて学習教材及びマニュアルを作成した。○指導者は初期日本語教室において、対話のモデルを示すとともに、サポーターの配置や教室の進行管理などを行った。○補助者は、受講者への助言・相談、受講者募集、通訳等による受講者のサポート等を行った。○講師は養成講座で初期日本語教育について講義を行った。○地域の拠点の日本語教室のボランティアは、養成講座を受講するとともに、初期日本語教室に日本語学習支援者として学習者への日本語習得支援を行った。○運営委員会は、初期日本語教室、指導者養成講座、学習教材について検討し、事業全体の成果の取りまとめを行った。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称: はじめての日本語教室】										
目的・目標	“地域における”初期日本語教室であることから、日本語のわからない外国人が、“地域の人と関係がつけられるようになること”に重点を置き、あいさつや自己紹介等ができ、日常生活の簡単な表現を理解し、話すことができるようになること(文字は、ひらがなが読める程度まで)をめざすとともに、初期日本語教室が終わってから、地域のボランティアの日本語教室につなげ、「やさしい日本語」がわかるレベルにまでなることをめざす。									
内容の詳細	○日本語がほとんど理解できない外国人が、あいさつや自己紹介等ができるようになるよう、平成30年度に開発した日本語学習教材の改訂版を活用し、日常生活を営む上で想定される話題を中心に、学習者のニーズに応じた日本語を習得できるよう、対話型による教室運営を行った。 ○この教室は、将来的に県内各地で「地域における初期日本語教室」を開催するためにモデル的に行うものであるため、実施状況をとりまとめ、報告書を作成する。									
実施期間	令和元年9月22日～令和2年1月5日	授業時間・コマ数	1回 2時間 × 19回 = 38 時間 1回 2.5時間 × 4回 = 10 時間 1回 3時間 × 4回 = 12 時間							
対象者	原則として、16歳以上で、日本語が全くわからないか、ほとんどわからない初期レベルの者(在留資格は問わない)	参加者	総数 86人 (受講者42人、指導者・支援者等 44人)							
カリキュラム案活用	「カリキュラム案について」の「Ⅶ 人とかかわる」を中心に各回のトピックを決めた。 プログラムの作成にあたり、「ガイドブック」の「4 日本語教育プログラムの作成手順」「日本語教育プログラムの具体例」を参考にした。 実際の教室活動は、「教材例集」の「Ⅶ 人とかかわる」を参考にした。 「日本語能力評価について」の「日本語学習ポートフォリオ」を参考に、学習者に教室活動を振り返ってもらうとともに、地域の日本語教室に引き継いでいくための記録として残した。 「指導力評価について」の日本語指導力ポートフォリオを参考に、教室活動の改善のために、指導者等が中心となって、毎回報告書を作成した。									
使用した教材・リソース	主に、平成30年度に作成した学習教材の改訂版(ワークシート)、テーマに即した写真、スマートフォン、地域資源(警察官、歩道)、習字道具、カルタ									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1		7	18			1		11	
	パキスタン(3人)、フランス(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年9月22日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	14	オリエンテーションと自己紹介	「自己紹介」では、自分の名前や出身地などについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。また、学習者の日本語能力の判定テストを行った。	岡部 真理子	山本剛		
2	令和元年9月29日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	16	わたしの一日	自分が一日に何をするかなどサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	白石 真理	山本剛 マスモトエリキ		
3	令和元年10月6日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	11	家族	家族構成などについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	岡部 真理子	山本剛 マスモトエリキ		
4	令和元年10月13日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	13	住んでいる所	住んでいる所についてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	岡部 真理子	山本剛		
5	令和元年10月20日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	9	食べ物	好きな食べ物や嫌いな食べ物についてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	白石 真理	マスモトエリキ		
6	令和元年10月27日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	11	料理	料理の名前や作り方などについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	荻谷 太佳子	山本剛		
7	令和元年11月3日(日) 13:30～16:30	3	刈谷市国際プラザ	11	1回～6回の復習と発表、ヒアリングと判定	1回～6回までの内容を振り返り、話たい内容を3つ選んで発表資料を作成した。作成した資料を元に2グループに分かれて発表を行った。学習者の日本語能力の判定と教室に対する感想の聞き取りを行った。次回以降の3つのテーマ決めを行った。	岡部 真理子	山本剛		
8	令和元年11月10日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	10	仕事	自分が今している仕事や今までした仕事についてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	岡部 真理子	山本剛		
9	令和元年11月17日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	5	買い物	どこで買い物をするかいつも買うものなどについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	白石 真理	山本剛		
10	令和元年11月24日(日) 13:30～16:00	2.5	刈谷市国際プラザ	7	交通安全教室	交通ルールについて警察官から話を聞いた後で、実際に外に出て、学習者がサポーターと習った交通ルールの確認をした。	岡部 真理子	山本剛		
11	令和元年12月1日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	7	お勧めの店	自分が気に入っているお店のことについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	白石 真理	山本剛		
12	令和元年12月15日(日) 13:30～15:30	2	刈谷市国際プラザ	3	復習と発表の準備	8回～10回までの内容を振り返り、話たい内容を1つ選んで発表資料を作成し、発表の練習を行った。	白石 真理	山本剛		
13	令和元年12月22日(日) 13:00～16:00	3	刈谷市国際プラザ	2	発表とふりかえり	12回で作成した資料を元に発表と交流を行った。学習者の日本語能力の判定と教室に対する感想の聞き取りを行った。	岡部 真理子	山本剛		

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年9月22日(日) 13:30~16:00	2.5	東刈谷市民センター	7	オリエンテーションと自己紹介	「自己紹介」では、自分の名前や出身地などについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。また、学習者の日本語能力の判定テストを行った。	千葉 月香	
2	令和元年9月29日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	10	わたしの一日	自分が一日に何をするかなどサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	荻谷 太佳子	
3	令和元年10月6日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	12	家族	家族構成などについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	荻谷 太佳子	
4	令和元年10月13日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	8	住んでいる所	住んでいる所についてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	千葉 月香	
5	令和元年10月20日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	7	食べ物	好きな食べ物や嫌いな食べ物についてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	岡部 真理子	
6	令和元年10月27日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	7	料理	料理の名前や作り方などについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	伊藤 クリスティーナ	
7	令和元年11月3日(日) 13:30~16:30	3	東刈谷市民センター	6	1回~6回の復習と発表、ヒアリングと判定	1回~6回までの内容を振り返り、話たい内容を3つ選んで発表資料を作成した。作成した資料を元に2グループに分かれて発表を行った。学習者の日本語能力の判定と教室に対する感想の聞き取りを行った。次回以降の3つのテーマ決めを行った。	千葉 月香	鈴木 幸子
8	令和元年11月10日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	5	旅行	自分の旅行の経験などについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	千葉 月香	鈴木 幸子
9	令和元年11月17日(日) 13:30~16:00	2.5	東刈谷市民センター	5	交通安全教室	交通ルールについて警察官から話を聞いた後で、実際に外に出て、学習者がサポーターと習った交通ルールの確認をした。	荻谷 太佳子	鈴木 幸子
10	令和元年11月24日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	12	休みの日	休みの日に何をするかなどについてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	伊藤 クリスティーナ	鈴木 幸子
11	令和元年12月1日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	14	仕事	自分が今している仕事や今までした仕事についてサポーターや全員と会話を通して伝える練習をした。	荻谷 太佳子	鈴木 幸子
12	令和元年12月8日(日) 13:30~15:30	2	東刈谷市民センター	14	復習と発表の準備	8回~10回までの内容を振り返り、話たい内容を1つ選んで発表資料を作成し、発表の練習を行った。	岡部 真理子	鈴木 幸子
13	令和元年12月15日(日) 13:30~16:00	3	東刈谷市民センター	14	発表とふりかえり	12回で作成した資料を元に発表と交流を行った。学習者の日本語能力の判定と教室に対する感想の聞き取りを行った。	岡部 真理子	鈴木 幸子

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年1月5日(日) 13:00~15:30	2.5	刈谷市市民交流センター	12	日本の伝統行事	書き初め、カルタ取り、餅つきなどの日本の伝統行事について日本語で説明し、理解した上で実際に体験した。その後、ワークシートを使って学んだ日本語への理解を深めた。	伊藤 クリスティーナ	

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第2回 令和元年9月29日】

- ・テーマについて、指導者がモデルを提示した。
- ・その後、サポーターが補助をしながら、学習者とサポーターが学習教材(ワークシート)を使って話す準備をした。
- ・学習者とサポーターのグループやペアで、学習教材を使いながら、本日のテーマである、「わたしの一日」について、自分が一日に何をするか、自分が何時に何をするか順番に話して、伝える練習をした。
- ・さらに、ペアを変えて、学習者とサポーターが、自分が一日に何をするか、自分が何時に何をするか順番に話して、伝える練習をした。
- ・その後、交流タイムとして、全員席を立て、多くの学習者と立って「わたしの一日」について話した。
- ・最後に、学習教材を活用して、話したことを日本語で書いたり、教室活動の感想を書くなどした。
- ・東刈谷の教室では、交流タイムの後に、学習者が「わたしの一日」について発表を行った。(写真右)



9/29(日)
会場：刈谷市国際プラザ



9/29(日)
会場：東刈谷市民センター

○取組事例②

【第9回 令和元年11月17日、第10回 令和元年11月24日】

- ・愛知県警察の方を講師に招き開催。
- ・110番のかけ方について、講師と指導者でモデル提示を行った。
- ・自転車の乗り方の解説動画を見ながら、講師が説明をい、指導者がやさしい日本語で説明を加えた。
- ・ワークシートを使って、テーブルごとに学習者とサポーターでグループワークを行った。
- ・学習者、講師、サポーターが外に出て、実際に道路を歩いて、学んだことの確認をした。
- ・学習者はワークシートに覚えたい言葉や感想を書いた。
- ・交通安全について「私の約束」を学習者に考えてもらい、皆の前で発表を行った。
- ・学習者から講師へメッセージカードを書いて手渡した。



第9回 11/17 (日)
会場：東刈谷市民センター



第10回 11/24 (日)
会場：刈谷市国際プラザ

○取組事例③

【第13回 令和元年12月15日、22日】

- ・第12回で、第8回～第11回までのテーマから、発表したい内容を選んで発表用の資料を作成した。
- ・第13回では、第12回で作成した資料を元に、一人ずつサポーターや見学者の前で発表を行った。
- ・第12回で、発表会へのご招待カードを作成し、会社の関係者や地域の人に渡したので、第13回の発表会には会社や地域の人が見学に来た。
- ・学習者が発表を行い、その後、発表を聞いたサポーターや見学者から発表内容について質問を行い、学習者がそれに応えた。
- ・学習者の発表について、サポーターや見学者から感想を伝えた。
- ・学習者に対して「はじめての日本語教室」の感想のヒアリングなどを行った。



12/15 (日)
会場：東刈谷市民センター



12/22 (日)
会場：刈谷市国際プラザ

(2) 目標の達成状況・成果

- ・最終回に実施した受講者アンケートの結果によると、「前より日本語が上手になったと思うか」について、アンケート回答者の全員が「まあまあ上手になった」または「上手になった」と回答した。また、「前よりも日本での生活ができるようになったと思うか」についても、全員が「少しできるようになったと思う」または「できるようになったと思う」と回答した。これらのことから、教室の目標である、「あいさつや自己紹介等ができ、日常生活の簡単な表現を理解し、話すこと」の力がついたと考えられる。
- ・対話型の初期日本語教室のプログラムについて、全員が「満足している」と回答しており、対話型の日本語学習は、学習者にとって満足度の高いものであると考えられる。
- ・もっと日本語を勉強したいと思うかについても、全員が「思う」と回答しており、最終回に、地域の日本語教室の説明をしたので、日本語学習の継続が期待できる。

(3) 今後の改善点について

- ・2教室を同じ日時開催したため、サポーターの確保が難しかった。学習者だけでなく、サポーターのことも考えた日程等に必要がある。
- ・本当に話せない人の何人かが、早い段階で辞めてしまったので、本当に話せない人に対するケアや対応をしっかりと行う必要がある。
- ・学習者に出席を促したり、教室の実施に関する連絡をしたり、円滑なコミュニケーションを図るために外国人サポーターの必要性を感じる場面が多々あったので、外国人サポーターがいると良い。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:初期日本語教育向け指導者養成講座】

目的・目標	初期レベルの学習者に対して「地域における初期日本語教育」ができる人材を養成するとともに、平成30年度に実施した指導者養成講座の受講者のスキルアップを図る。なお、この取組によって受講者を指導者に養成することは難しいが、講座を通して初期日本語教育の指導者を発掘し次年度以降の初期日本語教室の継続につなげるものとする。多くの受講者は講座を通して「日本語学習支援者」として養成される。									
内容の詳細	○「地域における初期日本語教育」を行えるようにするため、以下の2つの専門性を習得するための講座を開催した。 ・日本語教育の専門性の習得(「学習者のレベルを把握し次につなげることができる」「日本語のわからない人に日本語を使って日本語を教えられる」「学習者のニーズに応じた日本語を引き出す」等) ・地域の専門性の習得(「地域や住んでいる外国人の状況に関する知識がある」「日常生活を営む上で必要となる日本語とは何かを知っており、かつ、その内容を理解している」「地域の日本語教室のことを理解している」等) ○座学だけでなく、実際に教えることができるよう、別途開催した「地域における初期日本語教室」での実践を行った。また、初期日本語教室の参加者は、教室後に指導者とともに活動のふりかえりを行うとともに、教室参加レポートを作成し、対話型の初期日本語教育について、理解を深める機会を設けた。 ○平成30年度に実施した「初期日本語教育向け指導者養成講座」の受講者に対して、地域で継続して活動できるよう、フォローアップ講座を行った。									
実施期間	令和元年9月14日～令和元年12月14日	授業時間・コマ数	1回 5時間 × 4回 = 20時間 1回 3時間 × 3回 = 9時間 1回 2時間 × 1回 = 2時間							
対象者	日本語学習支援者として、初期日本語教育を行う意志のある者	参加者	総数 45人 (受講者 36人、指導者・支援者等 9人)							
カリキュラム案活用	初期日本語教室のサポーターとしての実践を通して、「カリキュラム案について」「教材例集」の「Ⅳ 人とかかわる」を中心にした日本語教室であることを学べるように活用した。 「日本語能力評価について」で示された「日本語学習ポートフォリオ」について説明し、活用方法を教えた。 「指導力評価について」の日本語指導力ポートフォリオを教室参加レポートの内容の参考にした。 「日本語教育人材の養成・研修の在り方」で示されている日本語学習支援者に望まれる資質・能力について、講座で説明した。									
使用した教材・リソース	講師が使用するレジュメ、パワーポイント、初期日本語教室での実践、昨年度作成した学習教材、今年度作成する改訂版学習教材、他の地域日本語教室関係者、昨年度の養成講座受講者									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										36

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年9月14日(土) 10:00～16:00	5	刈谷市社会教育センター	18	事業説明、受講者紹介、刈谷市の多文化共生事情、地域日本語教育概論1、2	①事業の説明と受講者の紹介、②刈谷市の多文化共生事情の説明、③国や愛知県内の状況について講義、④地域日本語教育人材について講義	米勢治子 千葉月香	大久保園子 酒井武士
2	令和元年9月21日(土) 10:00～16:00	5	刈谷市社会教育センター	22	対話型日本語教室1、2	①言語学習観と日本語教育活動について講義とワークショップ、②支援観と支援者の役割について講義とワークショップ	米勢治子 千葉月香	
3	令和元年9月28日(土) 10:00～12:00	2	一宮市向山公民館	12	フォローアップ講座	受講者同士の近況報告、平成30年度の養成講座の受講と教室参加で学んだことの振り返り、今後の地域日本語教育に必要なこと等の検討、自身の課題について意見交換	千葉月香	
4	令和元年10月5日(土) 13:30～16:30	3	刈谷市社会教育センター	19	地域日本語教育事情1	三河地域日本語教室関係者と、ワールドカフェ方式での意見交換会	米勢治子	伊藤佳寿子、金田文子、長尾晴香、平野紀久子
5	令和元年10月26日(土) 10:00～16:00	5	刈谷市社会教育センター	16	対話型日本語教室3、自立と協働	①対話型日本語教室での学びについて、②「自律学習」と「協働学習」について、講義及びワークショップ	千葉月香	
6	令和元年11月9日(土) 10:00～16:00	5	刈谷市社会教育センター	21	実践分析	教室参加者の動きとねらいについて、講義、ワークショップ及び質疑応答	千葉月香	
7	令和元年11月30日(土) 13:30～16:30	3	刈谷市社会教育センター	23	地域日本語教育事情2	平成30年度養成講座受講者との意見交換会(一宮市と刈谷市の初期日本語教室について、課題の分析など)	千葉月香	
8	令和元年12月14日(土) 13:30～16:30	3	刈谷市社会教育センター	19	まとめ	①これまでの講座で学んだこと、初期日本語教室への参加についてふりかえり、②昨年度の養成講座受講者による対話型日本語教室についての講義と質疑応答、④修了証の贈呈式	千葉月香	岩田 淳子

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回 令和元年10月5日】

- ・とよた日本語学習支援システム、豊川市国際交流協会、Vivaおがさき！！、刈谷市国際交流協会の日本語学習に取り組む方々をゲストスピーカーに招き、各団体の取組について説明を行った。
- ・その後、ワールドカフェ方式で、各団体の方々と養成講座の受講者が意見交換を行った。
- ・最後に、教室活動や運営のヒントを得ることができたか、自分の活動の紹介、意見や感じたことをいうことができたか、人の話を最後までしっかり聞くことが出来たかなどについて、ふりかえりを行った。



○取組事例②

【第8回 令和元年12月14日】

- ・これまでの講座で学んだこと、初期日本語教室への参加についてグループでふりかえりを行い、意見交換を行った。
- ・昨年度の養成講座受講者を講師に、昨年度、初期日本語教室で学習した学習者が、その後の地域の教室で、どの様に日本語学習を継続しているか説明を行い、改めて対話型の初期日本語教育について考える機会を設けた。なお、説明の内容は、「対話を通して日本語でのコミュニケーションを身に付けたことにより、日本語のやりとりをしながら文法を学んでおり、文法から始めた学習者よりも習得が早い」というものであった。
- ・最後に8割以上出席し、初期日本語教室にサポーターとして3回以上参加した受講者に、県から修了証を渡した。



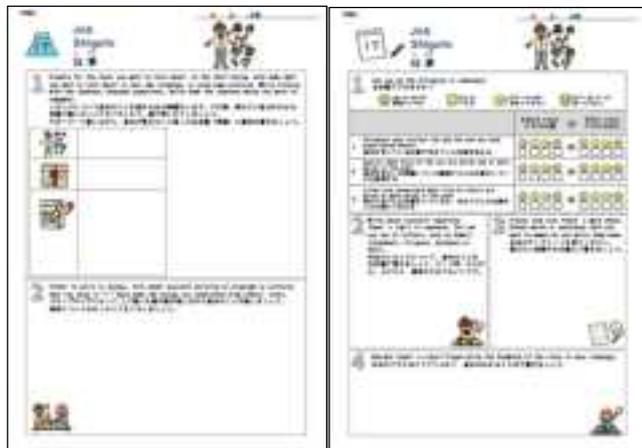
(2) 目標の達成状況・成果

- ・養成講座最終日の参加者19名中、この講座を受講して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったか聞いたところ、11名が「深まったと思う」、3名が「まあまあ深まったと思う」と回答。
- ・受講者は座学だけでなく、実践の場として、初期日本語教室においてサポーター役にも取り組んだ。
- ・地域の日本語教室で活動する人との交流や、昨年度の養成講座の受講者との交流の機会を設けた。そのことにより、受講者が地域の日本語教室に対する考えを深めることができたと考えられる。
- ・昨年度の養成講座の受講者に対して、フォローアップ講座を2回行い、2回中1回は、今年度の養成講座との合同開催したことにより、昨年度の受講者が自分の活動をふりかえり、今後の活動に役立つものが得られたのではないかと考えられる。
- ・講座の中で、受講者の疑問に答える機会や、初期日本語教室の後でのふりかえり、教室参加レポートの作成を行い、受講者に対話型の初期日本語教育について理解を促す取組に力を入れた。刈谷市での本事業を実施する場合の参加希望や、他市での実施を検討する受講者からの相談などがあり、こうした様々な取り組みの積み重ねが、対話型初期日本語教室の継続に向けた動きに繋がったのではないかと考えられる。

(3) 今後の改善点について

- ・本講座には刈谷市内だけではなく、市外からの参加者も多く、その中には、他地域での本事業の実施を望む声もあった。県内市町村で広く実施できるよう、本事業の普及に向けた取組が必要である。
- ・昨年度の養成講座の受講者に対して、フォローアップ講座や初期日本語教室にサポーターとしての参加を働きかけたが、自分で指導者をやってみるといふところまで至らなかったため、対話型の初期日本語教育を行うことができるようになるまで、継続してフォローアップを行うとともに、対話型の初期日本語教育ができる人材の養成を継続して取り組む必要がある。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：地域における初期日本語教育モデル事業はじめての日本語教室】			
目的・目標	平成30年度に作成した教材を初期日本語教室で使用し、改善を図る。また、対話型による日本語教室は、学習者の教材だけでは完結せず、初期日本語教育を行う指導者がそれをどう使うかまでセットで示すことによって学習教材となることから、指導者用のマニュアルも作成する。		
内容の詳細	<p>○年4回学習教材作成委員会を開催し、平成30年度に作成した教材の改善を図るとともに、初期日本語教育を行う指導者用マニュアルを作成した。なお、学習教材は新たなトピックの追加、翻訳の見直し等を行い、マニュアルは学習教材を使った指導方法を解説したものを作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会第1回では、学習教材案の構成や内容について検討し、それに基づき、再委託団体と県で案を作成した。 ・委員会第2回では、学習教材案の完成に向けて構成や内容について確認した。 ・委員会第3回では、マニュアル案の構成や内容について検討した。 ・委員会第4回では、マニュアルの完成に向け、構成や内容について確認した。 <p>・第1回から第4回の委員会の間に、案として作成した学習教材を実際に日本語教室で使用し、受講者、指導者、コーディネーターから意見を聞きながら完成させた。</p>		
実施期間	令和元年7月25日～令和2年2月28日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 30回 = 60時間
対象者	学習教材の対象者：日本語学習者（原則として、16歳以上で、日本語が全くわからないか、ほとんどわからない初期レベルの者。母語は限定しない。） マニュアルの対象者：地域で初期日本語教育に取り組む者	教材の頁数	学習教材の増補 44ページ×5言語（30時間） マニュアル 39ページ（30時間）
カリキュラム案活用	<p>「カリキュラム案について」の「Ⅶ 人とかかわる」を参考に、教材に追加するトピックを考えた。 「ガイドブック」の「4 日本語教育プログラムの作成手順」及び「具体的な日本語教育プログラムの作成」、「教材例集」の「Ⅶ 人とかかわる」を参考に、教室運営の方法等について、マニュアルに示した。 ボランティアによる地域の日本語教室との共有が図れるよう、「日本能力評価について」を参考に「教材のCan-doリストを作成した。 「指導力評価について」の日本語指導力ポートフォリオを教材の見直しの参考にした。</p>		
事業終了後の教材活用	「地域における初期日本語教育」の普及に向け、市町村及び市町国際交流協会やNPO等へ活用を働きかける。		
成果物のリンク先	https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/		



ワークシート



指導者マニュアル

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

愛知県においては、平成25年度に策定した「愛知県多文化共生社会に向けた地域における日本語教育推進のあり方」において、「地域における日本語教室」を、「ことばや文化、国籍などのちがいがいにかかわらず、すべての県民が誰でも参加でき、日本語を使ってコミュニケーションすることによって日本語の力を身につける」場と位置付けている。このような教育の場では、ボランティアと外国人県民が対等な立場で相互理解を深めるためのテーマや地域に密着したテーマなどを学ぶことで、日本語や日本社会の知識を身につけたり互いの文化的背景や考え方を理解したりすることができる。しかしながら、日本語が全くわからないか、ほとんどわからない外国人県民と最初からこうした場をボランティアが作ることは困難であり、地域の日本語教室が本来の役割を果たすためには、日本語教育の専門的な知識とノウハウを持った専門家が初期日本語教育を行い、ボランティアがコミュニケーションをとれる程度にまで日本語力を身につけてもらうことが必要である。そこで、愛知県として、専門家の協力を得て、日本語をほとんど話せない外国人県民を地域のボランティアによる日本語教室へ橋渡しするための初期日本語教育の愛知モデル(あいち初期日本語教育プログラム)を構築することにより、外国人県民を地域社会の一員としてしっかり受け入れ、社会から排除されないための社会インフラ整備を目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・最終回に実施した初期日本語教室の受講者アンケートの結果によると、「前より日本語が上手になったと思うか」について、アンケート回答者の全員が「まあまあ上手になった」または「上手になった」と回答した。また、「前よりも日本での生活ができるようになったと思うか」についても、全員が「少しできるようになったと思う」または「できるようになったと思う」と回答した。これらのことから、教室の目標である、「あいさつや自己紹介等ができ、日常生活の簡単な表現を理解し、話すこと」の力がついたと考えられる。

・刈谷市が来年度以降も継続して本事業を実施することになった。これは、初期日本語教室の実施にあたり、当初から刈谷市が継続を視野に入れていたことが、来年度、刈谷市で本事業の実施の検討に繋がったものと考えられる。

・養成講座最終日の参加者19名中、この講座を受講して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったか聞いたところ、11名が「深まったと思う」、3名が「まあまあ深まったと思う」と回答。

・養成講座の中で受講者の疑問に答える機会を設けるとともに、実践のためにサポーターとして初期日本語教室に参加し、初期日本語教室後にふりかえりや教室参加レポートの作成を行い、受講者に対して型初期日本語教育について理解を促す取組に力を入れた。刈谷市で本事業を実施する場合の参加を希望する方や、他市での実施について相談があり、こうした様々な取り組みの積み重ねが、対話型初期日本語教室の継続に向けた動きに繋がったのではないかと考えられる。

・昨年度の養成講座の受講者に対して、フォローアップ講座を2回行い、2回中1回は、今年度の養成講座との合同開催としたことにより、今年度の受講者と昨年度の受講者の両者が日本語教室に対する考えを深め、各自の活動に役立つものが得られたのではないかと考えられる。

・学習教材は、昨年度のものベースに改善したので、より完成度の高いものとなった。学習教材の活用方法だけでなく、活動の流れについても説明した、指導者用のマニュアルも作成したことにより、「地域における初期日本語教育」を各地域で実施するベースができたと考えられる。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・教材開発(トピックの追加)の際に標準的なカリキュラム案の生活上の行為例を参考にした。生活上の行為例の中から、参加者同士が相互の生活習慣への理解、人間関係の構築がしやすいと考えられる、身近で具体的なものを対話活動のトピックとして使用した。その結果、参加者同士が互いのことを知りあうことを促進するのはもちろん、外国人参加者が日本の生活習慣や居住する地域の文化や住環境に関心をもつきっかけをつくることのできた。これを通して、教室活動での対話が活発になり、また、教室外でも参加者同士が交流するきっかけにもなった。

・教材はCan-do statementsを軸に開発し、教室での学習活動が他の日本語教室のコーディネーターや学習支援者にもわかりやすくなるように工夫し、本教室で使用し、記入した教材自体がポートフォリオとしての機能をもつように考慮して開発した。

・養成講座で「指導力評価について」の指導力評価項目一覧を使用したことで、本事業における事業運営者(コーディネーター、再委託者)および支援者(指導者:教室コーディネーター、日本語サポーター、外国人住民補助者)の役割の理解と整理に役立った。特に、教室の中での支援での行為以外にも、外国人に関する背景知識の重要性などを確認することができた。

・「指導力評価について」の指導力評価項目一覧の中に、「日本語教育人材の養成研修の在り方」で言及されている「学習支援者」に該当する項目が充実したら、地域日本語教室に関わるより多くの人の研修および研鑽に役立つのではないかと考えられる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・コーディネーター:県に対して事業実施に関する助言や提案、今後の展開についての助言を行った。また、学習教材作成に関して、再委託者、指導者へのアドバイス、刈谷市への事業継続の働きかけを行った。

・再委託者:初期日本語教室の指導者の確保、カリキュラム作成、初期日本語教室・指導者養成講座の運営、受講者のケア、継続して受講しやすい雰囲気作りを行った。また、指導者・コーディネーターと協力して学習教材を作成した。

・指導者:カリキュラムの作成、初期日本語教室の指導者、指導者養成講座での講師を担当した。

・外国人住民補助者:受講者の学習のサポートを行った。

・刈谷市役所:初期日本語教室、指導者養成講座の会場の確保を行った。教材作成委員会の委員として、教材作成に協力した。来年度の刈谷市における初期日本語教室の開催に向けて、関係各所との調整を行った。

・運営委員会:初期日本語教室や指導者養成講座の内容について助言を行い、カリキュラムに反映させた。事業の成果や評価について検討し、次年度以降の取り組みの方向性について県に提案した。

・刈谷市国際交流協会:受講者募集に関して外国人が通うお店の情報提供を行った。来年度の刈谷市における初期日本語教室の予算を確保した。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

【参加者への周知・広報】

・県:記者発表を行い、市町村、関係機関・団体、刈谷市ハローワークヘチラシを配布した。また、再委託者と初期日本語教室の会場の近くにある団地へのチラシのポスティングをした。

・刈谷市役所:既存の地域の日本語教室のボランティアに対して、本事業の説明等を事前に行い、指導者養成講座の受講者の参加につなげた。来年度の刈谷市における初期日本語教室開催に向けて改めて既存ボランティア向けの説明会を行い、既存教室との連携を図った。

・再委託者:チラシ作成への協力や翻訳を行った。再委託者と初期日本語教室の会場の近くにある団地へのチラシのポスティングをした。

・刈谷市国際交流協会:協会で行われている既存の日本語教室の学習者への広報を行った。

・補助者:刈谷市国際交流協会で行われている既存の日本語教室の学習者に、初期日本語教室への参加を呼びかけた。初期日本語教室の開催曜日と場所が既存の日本語教室の開催曜日と同じであったため、既存の教室の学習者が続けて参加することができ、募集を開始してから早い段階で一定数の学習者が確保でき、効果的であった。

【事業成果の地域への発信】

・県及び刈谷市役所のWEBページにおいて、教材や事業成果の公表や、県が行う会議や出前講座等で成果を報告する予定である。

・11月23日(土)に開催した「あいち多文化共生フォーラム」(主催:愛知県)において、「文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」パネル展を開催し、文化庁の「生活者としての外国人」事業を実施した7団体の取組を紹介した。その際、愛知県は、昨年度の本事業の成果についてPRを行った。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・仕事や生活の都合等で途中から来なくなる学習者がいたので、外国人コーディネーターを配置し、毎回、参加を働きかけるなど、学習者に寄り添うような取組や、いつでも教室に参加できるような環境づくりが必要である。
- ・企業から本事業への参加の申込があった場合の位置づけを整理する必要がある。
- ・企業からの申込が増加した場合の受入れ方法や対応を検討する必要がある。
- ・今年度はできなかったが、学校を通じて、外国人児童生徒の保護者に初期日本語教室への参加を働きかける必要がある。
- ・サポーターが不足した場合、学習者同士での対話や、養成講座を受講していない人にサポーターとして協力していただけるような取組を検討する必要がある。
- ・対話型の初期日本語教育ができる人材の養成については、指導者ができるようになるまで時間がかかるため、継続してフォローアップを行うとともに、対話型の初期日本語教育ができる人材の発掘・養成に継続して取り組む必要がある。
- ・対話型の初期日本語教室を理解し、教室活動を実施できる人材を増やすため、次年度以降も他地域で同様の取り組みを行うとともに、今後、本取組を県内各地域に広めるため、これまでの取組の内容や成果をまとめた報告書を作成し、普及に努める。

(7) その他参考資料

ちらし(はじめての日本語教室、初期日本語教育向け指導者養成講座)